

東京大学

理学部広報

第3巻 第3号 昭和46年3月15日

内 容

理学部会合日誌	2
教授会メモ	2
教務委員会	2
教官人事移動	4
理学部とところどころ: 古い文書から No. 1	4
お知らせ	5

2月 理学部会合日誌

- 8日(月) 14:00~ 理学系研究科委員会
10日(水) 10:00~12:00 人事委員会
12:00~14:00 情報科学設立準備委員会
14:00~15:00 総合計画委員会
15:00~17:00 教務委員会
16日(火) 11:00~12:00 総合計画委員会
17日(水) 13:00~17:00 教授会
22日(月) 12:30~13:50 理職との会見
24日(水) 13:00~15:00 主任会議

教授会メモ

2月17日(水) 定例教授会 於4号館物理会議室

1. 前回の議事承認
2. 人事異動等の報告
3. 研究生入学の件
4. 寄附の件
5. 学内状況報告 その他雑件
 - 1) 学部長から去る1月29日の付属臨海実験所における火災発生についての報告があり、小林教授から発生状況についての報告ならびに陳謝の意が述べられた。
 - 2) 学部長から昭和46年度国際研究会ならびに文部省在外研究員の順位を早急に提出するために学部長が決めた旨報告があった。
 - 3) 昭和46年度入学試験については、約15000名が応募し、3月3日、8日、9日の3日にわたって試験が実施される。また、入試総監督大木教授からは、警備体制についての説明ならびに教官の協力についてのお願いがあった。
 - 4) 全学セミナーの募集についての報告
 - 5) 協議会において情報科学連絡委員会の設立が承認された。
 - 6) 次回の公開講座の題名は「人間と環境」で、理学部からの企画委員を岸保教授にお願いした。
 - 7) 全学学生援護委員会は精神衛生面の厚生を主として取扱っているが、その資金として寄付金の依頼があったので講師以上の教官の俸給から一定金額を拠出して頂くことになっているので、この点御了承願いたい旨述べられた。
 - 8) 学内状況
臨職問題に関連しておこっている地震研、応徴研、農学部の紛争状況の報告があった。本学部に

における昭和37年の臨職定員化以降現在に至るまでの臨取の経緯ならびに経緯が述べられた。

9) 建築関係

最近、建築特別委員会が開かれ、昭和46年度における建築計画が検討された。本学部においてもこの問題については考えておく必要がある旨が述べられ、建築を予定している建物について詳細にわたる説明があった。

6. 総合計画委員会報告(古谷教授委員長代)

2月16日に河田教授を委員長として選出したとの報告があった。学部長から、昭和47年度の概算要求は同委員会で検討していただくが、総合研究施設の要求も数年続いているので再検討する時期でもあるし、毎年提出している学科拡充改組、研究施設、特別設備事業費、建物など、同委員会で検討してほしい希望があれば申し出られたい旨の説明があった。

7. 人事委員会報告(島村委員長)

臨時職員の新規採用については今後、各教室からの申出を人事委員会において個々に検討することとした旨の報告があり、これを了承した。

8. 会計委員会報告(高井委員長)

最近開かれた委員会の審議内容の説明があった。

9. 教務委員会報告(大木委員長)

別項参照

10. 幹事会報告

昭和46年度入学試験の実施について、大木、宮沢両教授から入試関係業務をお願いする教官の数は約50%であるがその他の教官にも協力をお願いすることもあるかもしれないので、その際はよろしく御願いたい旨が述べられた。

11. その他

学部長から、教室主任会議の開催を2月24日と3月10日の2日間に予定している旨報告があった。

教務委員会関係

2月10日定例の教務委員会を開き、下記事項について協議した。

昭和46年6月卒業見込の学生の学士入学については、願書を5月8日まで受け付け、選考は各教室にまかせる。

昭和46年度進学生の進学式は5月6日に行なう。この進学生については、昭和47年3月末までに、通常の学年歴にもどる予定であるが、授業計画は各教室にまかせる。

化学科、生物化学科、生物学科および地学科の学生に対する情報科学の講義は昭和46年度においても実施する。科目はさしあたり生物科学持論Ⅸをあてることとし、単位は1単位である。授業形態については集中講義を予定しているが、詳細はおって知らせる。

昭和45年度入学生のカリキュラムは、種々の改革が実行されているが、それに伴い、第4学期の専門科目についても改定が必要となって来た。別記に示す一覧表は、教養委員会と各教室とが連絡をとってつくった、第4学期教科目改正案である。基本的には、「クサビ型」のカリキュラムにしたがって、第4学期の専門科目を充実しようとの意図がもられているが、今後なお調整を行なう、最終的なものにもっていくつもりである。なお、二の教室においては、教室内でもさらに意見を調整する部分が残されていることを特に付言された。

教養学部第4学期専門科目履修規則改正案

数 学 科

純粋数学を主とするものも応用解析を主とするものも、教養学部第4学期において必修科目6科目(計15単位)のほか、選択科目より4単位以上学修しなければならない。

ただし、「解析学Ⅲ」および「解析学Ⅲ演習」のかわりに「物理数学Ⅰ」および「物理数学Ⅰ演習」を学修してもよい。

必修科目	単位
代数と幾何	4
代数と幾何演習	1
集合と位相	4
集合と位相演習	1
解析学Ⅲ	4
解析学Ⅲ演習	1
選択科目	
力 学	4
電磁気学Ⅰ	4
天文学概論	2
地球物理学概論	2

物理学科

天文学科

地球物理学科

教養学部第4学期において必修科目5科目(計18単位)のほか、選択科目より4単位以上を学修しなければならない。

必修科目	単位
物理数学Ⅰ	4

物理数学Ⅰ演習	1
物理実験学	4
力 学	4
力学演習	1
電磁気学Ⅰ	4
選択科目	
天文学概論	2
地球物理学概論	2
物理化学序論	2
無機化学Ⅰ(序論及び単体)	2

化 学 科

教養学部第4学期において必修4科目(計12単位)のほか、選択科目より8単位以上を学修しなければならない。

必修科目	単位
物理化学序論	4
無機化学Ⅰ(序論及び単体)	2
分析化学Ⅰ(総論)	2
有機化学Ⅰ	4
選択科目	
物理数学Ⅰ	4
物理数学Ⅰ演習	1
生体物質化学Ⅰまたは動物生理化学Ⅰ	2
細胞生理化学Ⅰ	2
細胞生理学	2
力 学	4
地球物理学概論	2
物理実験学	4
電磁気学Ⅰ	4
地質学鉱物学概論	4

生物化学科

教養学部第4学期において、必修4科目(計12単位)のほか、次の選択科目または他の専門科目計6単位以上を学修しなければならない。

ただし、ここにいう専門科目は理学部のために設けられた第4学期の専門科目で教職課程科目は含まれない。

必修科目	単位
生体物質化学Ⅰ	2
物理化学序論	4
細胞生理化学Ⅰ	2
有機化学Ⅰ	4
選択科目	
分析化学Ⅰ(総論)	2
物理数学Ⅰ	4
物理実験学	4

力 学	4
電磁気学 I	4
無機化学 I (序論及び単体)	2

生物学科

動物学課程に進学するものは、教養学部第4学期において、次の必修2科目(計4単位)のほか、専門科目12単位以上(計16単位以上)を学修しなければならない。

ここにいう専門科目は理学部のために設けられた第4学期の専門科目であって、教職課程科目は含まれない。

必修科目	単位
動物生理化学 I	2
細胞生理学	2

選択科目

物理化学序論	4
細胞生理化学 I	2
細胞学 I	2
生態学 I	2
物理実験学	4
地質学鉱物学概論	4
生物統計学	2
生物統計学演習	1

植物学課程に進学するものは、教養学部第4学期において、次の専門科目から16単位以上を選択して学修しなければならない。ただし、ここにいう専門科目は理学部のために設けられた第4学期の専門科目で教職課程科目は含まれない。

選択科目	単位
細胞学	2
生態学 I	2
無機化学 I (序論および単体)	2
地質学鉱物学概論	4
物理実験学	4
物理化学序論	4
有機化学 I	4
動物生理化学 I または生体物質化学 I	2
細胞生理化学 I	2
生物統計学	2
生物統計学演習	1
人類学概論	2
一般古生物学	2

人類課程に進学するものは、教養学部第4学期において次の必修科目(5単位)のほか選択科目(8単位)以上を学修しなければならない。ただし、選択科目は次の科目以外のものであってもさしつかえない。

ここにいう専門科目は理学部のために設けられた第4

学期の専門科目であって教職課程科目は含まれない。

必修科目	単位
人類生物学	2
生物統計学	2
生物統計学演習	1

選択科目

生態学 I	2
物理実験学	4
地質学鉱物学概論	4
生体物質化学 I または動物生理化学 I	2
細胞生理化学 I	2
細胞生理学	2

地学科

地質学、鉱物学課程に進学するものは、教養学部第4学期において次の必修科目(8単位)のほか、指定の専門科目13科目中から10単位(計18単位)以上を学修しなければならない。

必修科目	単位
地質学鉱物学概論	4
岩石学 I	2
一般古生物学	2

選択科目

地形学 I	2
力学	4
天文学概論	2
生物統計学	2
生体物質化学 I	2
生態学 I	2
気候学 I	2
細胞学	2
物理実験学	4
地球物理学概論	2
物理化学序論	4
無機化学 I (序論および単体)	2
分析化学 I (総論)	2

地理学課程に進学するものは、教養学部第4学期において次の必修5科目(計12単位)のほか、専門科目4単位以上を学修しなければならない。ただし、ここにいう専門科目は理学部のために設けられた第4学期の専門科目のほか、史学概論、経済史、土壌学を含む。

必修科目	単位
地形学 I	2
気候学 I	2
人文地理学	2
地誌学概論	2

教官人事移動 (除退・休職)

氏名	所属	発令事項	発令年月日
中村誠太郎	物理	教授に昇任	46. 1. 1
水野丈夫	動物	助教授に昇任	46. 1. 1

理学部ところどころ

古い文書から No. 1

理学部は大震災、戦災をまぬがれたのと、当時の担当者の保管が良かったため明治時代の書類は比較的良く保存されている。先日、古い文書を調べたところ、明治 21 年頃には専任の教授にそれぞれ馬一頭が貸与されている旨の書類がのこっていた。今としては官用自動車に当るものか。当時の大先生方が馬にまたがって、登学される様は思いうかべても興味深いものがある。

なお、明治 21 年の理科大学の教授名 (兼任を含む) ならびに俸給も参考までに掲げてみた。ちなみに、その頃の物価は、米 1 升が約 15 銭であった。

記

理科大学職員一覧表 (教授) 明治 21 年 9 月

官職	主管	俸給	本務	氏名
教授兼 大学長	数 学	年俸 3,000円		菊池大麓
教授兼 教 頭	植物学教室 植物園主任	3,000円		矢田部良吉
教 授	物理学主任 物 理 学 教 室 主 任	2,200円		山川健次郎
"	純正化学 教 室 主 任	1,800円		桜井鏡二
"	金 石 学	300円	農 商 務 省 地 質 局 長	和田維四郎
"	動 物 学 教 室 主 任	1,800円		箕作佳吉
"	星 天 文 台 主 任	1,600円		寺尾 寿
"	地 質 学 教 室 主 任	1,600円		小藤文次郎
"	地 質 学		農 商 務 省 地 質 学 次 長	原田豊吉
"	動 物 学	1,200円		飯島 魁
"	地 震 学 教 室 主 任	1,200円		関谷清景
"	物 理 学 教 室 主 任	300円	農 林 学 校 教 授	北尾次郎
"	数 学 教 室 主 任	1,200円		藤沢利喜太郎

名称	産地	年齢	毛色	寸 尺	氏 名
寿松	三 春	7年	青 毛	4 尺 7 寸	菊池大麓
千琴	仙 台	8 "	栗 毛	4 尺 7 寸 5	矢田部良吉
東雲	七の戸	6 "	芦 毛	4 尺 8 寸	山川健次郎
星水	峯 岡	9 "	青 毛	4 尺 8 寸	桜井鏡二
羽陽	雑 種	3 "	栗 毛 流し星	4 尺 6 寸	箕作佳吉
猶竜	南 部	7 "	鹿 毛	4 尺 7 寸	寺尾 寿
真鶴	仙 台	7 "	栗 毛	4 尺 7 寸 5	小藤文次郎
心源	南 部	5 "	青 毛	4 尺 6 寸	飯島 魁
相生	北 海 道	4 "	紅栗毛	4 尺 8 寸	関谷清景
鐘	南 部	7 "	青 毛	4 尺 7 寸 8	藤沢利喜太郎

(吉野誠治)

お 知 ら せ

○東京大学物性研究所の助手公募

- (1) 研究室名および公募人員数
磁気第1部門 近角研究室 (教授 近角聡信)
助 手 1名
- (2) 研究分野
強磁場、電子計算機御磁制気測定装置などの手段による強磁性、反強磁性およびそれに伴う現象の実験的研究。
- (3) 資 格
修士課程修了またはこれと同等以上の能力のある人。
- (4) 任 期
5年以内を原則とする。
- (5) 公募締切
昭和 46 年 5 月 15 日 (土)

○オーストラリア、クィーンズランド大学

1972 年度研究員募集

分 野: 人文科学, 社会科学, 自然科学
資 格: 博士取得者または本年 9 月までに取得する見込みの者。
締 切 日: 8 月 1 日

○1972～73 年度イースト・ウエスト・センター
奨学金の申請募集

研究分野：社会科学および人文科学。応用科学および基礎科学。

資格：日本国籍を有すること。

1937 年 7 月 1 日以後に出生した者。大学卒業業者。

以上詳細は理学部大学院掛まで照会のこと。

○毎日新聞より学術研究成果の刊行援助
の申し入れ

毎日新聞社出版事業本部企画室より次のような連絡がありましたのでお知らせします。

記

毎日新聞社では、かねて毎日学術奨励金、毎日芸術

賞、出版文化賞、エコノミスト賞などを通じてわが国の学術文化の向上に微力をつくしてまいりましたが、今回毎日新聞出版事業本部(出版局を改組)の発足にあたり、各大学、研究機関における研究者の、貴重な学術研究成果の刊行にいささかのお手伝いをいたしたいと考えております。

つきましては、貴学部、研究所におかれましては、研究者各位にその旨をお知らせいただきたくよろしくお願い申し上げます。

なお、論文刊行の予算、経費、印税など詳しいことは出版事業本部企画室(〒100 東京都千代田区一ツ橋1-1 毎日新聞東京本社 電・代表(03)212-0321 内線 5541)

にお問合わせください。

編集 和田昭允
理・1号1館 217号室 内線 2298